



先輩職員インタビュー

「いざという時に自分の命を守るために」



行政事務

所属 危機管理部 災害対策課

● これまでの経歴(所属年度)

H25	総務部	市町村行政課
H26	総務部	市町村財政課
H27~H29	富岡土木事務所	用地課
H30	浪江町派遣	
H31~	危機管理部	災害対策課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 災害対策課は、県民の命を守るため、災害時の円滑な住民避難を促すことや、災害後の速やかな被災者の救助のための取組をしています。令和元年東日本台風では、県内の多くの市町村で大雨特別警報が発令され、災害関連死も含め40名の方が亡くなりました。災害発生前にどれだけ準備をしておけるか、防災意識を根付かせることができるかで、県民の方の命に直結するため、重い責任があることを痛感するとともに、一人でも多くの方を救うため、より一層気を引き締めて業務に当たりたいと感じています。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 以前は富岡土木事務所に勤務し、その後に浪江町に派遣になりました。富岡土木事務所は広野町の仮設庁舎にあり、その後、富岡合同庁舎、浪江町役場と、勤務場所が双葉郡の南から北に順々に移っていきました。広野町や檜葉町などは住民の方が段々と帰還してきており、町の賑わいを感じることができましたが、富岡町や浪江町は住民の帰還率も低く、震災から10年が経っても復興はまだまだこれから、という印象で、復興には長い時間がかかることを考えさせられました。

原発事故の影響を強く受ける双葉郡に寄り添いながら、双葉郡全体の地域の活性化を目指して行きたいです。



↑ 打ち合わせの様子



Q. 本庁と出先の雰囲気の違いについて教えてください。

A. 住民の方とお会いしたり、お話ししたりする機会が多いのは出先機関で、本庁はその声をまとめて施策として反映させる役割があると感じます。ただし、本庁でも住民の方からお電話をいただく機会は多く、住民の方の生の声をしっかりと拾い上げていくことが重要だと考えています。



↑デスクワークの様子

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「休日はスポーツ観戦」「フットワークを軽く」「笑顔」「必ず昼寝」「料理」

Q. 「笑顔」について教えてください。

A. 勤務中や勤務外を問わず、笑顔でいることを心がけています。公務員と聞くと固いイメージがありますが、いつも笑顔でいることで、課内だけでなく、他の部署の職員や住民の方などと、腹を割って話せる関係を作れるようにしています。



↑セミナーで講師を務めた様子